

## メディカルソーシャルワーカーは NST回診対象患者様の今後の療養先・方向性などの情報提供を行っています。

### 『在宅をあきらめない』



胃ろうでも経鼻胃管でも CVポートでも末梢点滴でも、がんでも帰りたい気持ちと少しのサポートがあれば在宅生活は可能です。核家族化などで家庭介護力の低下はありますが、医療側の決めつけや間違った情報提供で在宅の芽をつぶさないように援助し、その中で施設という自己決定をしたならば、その意思を尊重し援助していきたいと思っています。しかし、医療制度改正による療養型病院の医療依存度による医療区分の設定、老健の包括診療、福祉施設の医療職の配置、経済的問題などで転院・施設への入所はかなり制限をうけるのも現実です。NSTを通じ、栄養評価とともに退院支援のアセスメントも行い専門性を生かし合いながら、他職種で退院援助に関わっていけるような体制ができればと考えてます。

MSW 杉本 有希

4人で仲良くがんばっています☆  
忙しくてなかなかPHSでれなくてすいません…



## JSPEN参加報告

H24.2.23～24

第27回日本静脈経腸栄養学会 神戸国際会議場にて

当院からは栄養科 丸藻朋子が発表しました

演題： 摂食・嚥下治療を支えるNSTの取り組み



今回の学会のメインテーマは『治療する側、受ける側』であり、治療を受ける患者さんの立場から医療技術の進歩や今後の活動を考える機会となりました。NSTを含めた栄養管理技術は今後もさらに「病院から在宅」へ広がっていくと思います。在宅で患者さんを支える家族の目線の栄養管理も重要ではないかと思いました。約1300題にも及ぶ一般口演や講演、ワークショップからさまざまな事を学びました。今後NSTの役割をより明確にし、質の高いサポートができるよう一致団結して活動していきたいと考えています。

医師2名、薬剤師1名、看護師3名、管理栄養士3名の計8名で参加しました。